（別記）

令和８年度青森県水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本県における令和７年度の水田本地面積は、７万２，８００ｈａで、このうち約６割に当たる４万３，７００ｈａで主食用米が作付けされており、飼料用米や加工用米などの非主食用米が約５，６００ｈａ、次いで大豆が約４，３００ｈａ、飼料作物が約２，５００ｈａ、野菜が約１，９００ｈａとなっている。

令和７年産は、主食用米価格の高騰により、非主食用米から主食用米に回帰する動きが強まったことから、飼料用米の作付面積は前年から約１，１００ｈａ減となったほか、輸出用米は約２００ｈａ減、ＷＣＳ用稲は約２６０ｈａ減、大豆は約５６０ｈａ減となった。

このような状況の中、主食用米の作付面積が増加し続けることで、需給が緩和し、米価下落につながるおそれがあることから、飼料用米や新市場開拓用米等の取組を継続的に支援するとともに、需要が増加している米粉用米に新たに支援する必要がある。

また、令和９年度から始まる新たな水田政策では、作物ごとの生産性向上の支援に転換することを検討している。

転作作物の約３割を占める大豆は、収量が低いことが課題であるため、効果的な排水改善やブロックローテーション等により生産性を向上させる必要がある。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

水田における高収益作物の導入に関しては、引き続き、野菜を中心とした転作作物の生産を振興することとし、明きょの設置や高うね栽培など排水性の改善により栽培が可能で、好調な販売を維持しているにんにくをはじめ、比較的軽量で大型の機械装備を必要としないブロッコリーやねぎ、ピーマンなどの作付けを進めていく。

また、経営の安定化やリスク分散に寄与し、需要が増している加工・業務用野菜については、交付単価の加算措置がある畑地化促進事業を活用し、生産振興を図っていく。

さらに、県が策定した「水田農業高収益化推進計画」に基づき国内需要が高いほか、労働生産性に優れ、輪作体系に取り込みが可能な子実用とうもろこしの取組拡大を推進する。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

水田の有効利用に向け、適地適作を基本に飼料用米や大豆などの転作作物を中心に生産振興を図っていく。特に大豆では、収量を向上させるため、効果的な排水改善や雑草防除対策などの技術指導のほか、労働力不足に対応するためスマート農業機械の導入を支援するなどソフト・ハード両面から産地を支援する。

また、畑地化については、生産者の農業経営において、生産コストや機械装備の経営資源などの状況を勘案する必要があるほか、地域の中・長期的な水田農業の方向性を視野に入れながら、慎重に判断する必要があることから、関係機関と連携しながら、転作作物が定着している水田は、生産者の意向を尊重して、畑地化促進事業を利用し「畑地化」を進め、排水対策等と併せて生産性向上に取り組んでいく。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

夏季の高温に対応した生産管理の徹底により「青天の霹靂」、「はれわたり」及び「まっしぐら」の良食味・安定生産を図る。

（２）備蓄米

収穫前に米価が確定し、稲作経営の安定が図られることから、引き続き県優先枠を活用していく。

（３）非主食用米

「水田活用の直接支払交付金」及び「コメ新市場開拓等促進事業」を最大限に活用しながら、飼料用米や米粉用米、新市場開拓用米等の非主食用米の作付けを推進する。

ア　飼料用米

令和６年度・７年度からの複数年契約について支援を継続するとともに、令和８年度からの新規契約分について、単年契約も含めて新たに支援する。

イ　米粉用米

業者からの需要の高まりに対し、県内産地において作付意向が強いことから、直播栽培や肥料低減等の生産性向上の取組に対して新たに支援する。

ウ　新市場開拓用米

主食用米よりも取引価格が低いものの、国内市場の縮小が進む中、新たな販路として有望であることから、生産性向上を図る取組の支援を継続する。

エ　ＷＣＳ用稲

飼料価格が高止まりする中、国産飼料として需要が高いことから、新規拡大分に加え、継続作付分も新たに支援し、生産性向上を図る取組を拡大する。

オ　加工用米

実需者への安定供給を目指し、取組を維持する。

（４）大豆、麦、飼料作物

ア　大豆・麦

他県に比べて収量性が低いことから、省力・低コスト技術の導入と、高品質安定生産対策を徹底するとともに、大豆の新規拡大分に対して支援する。

また、団地化による生産性の向上を図りながら、水稲とのブロックローテーションによる品質・収量の向上を図るとともに、長年作付けが定着した地域では畑地化促進事業の活用を推進し継続的な拡大を図る。

イ　飼料作物

長期化が予想される輸入飼料価格の高止まりを視野に、国産飼料として期待される子実用とうもろこしの新規拡大分に対して支援するとともに、畑地化により生産性の向上が見込まれる農地については、畑地化促進事業の活用を支援し、飼料作物の定着化を図る。

（５）そば、なたね

面積の維持に努めながら、排水対策を始めとした基本技術を徹底し、高品質・安定生産と団地化による作業の効率化を図る。

（６）地力増進作物

生産性向上のため、緑肥作物の積極的な導入を進める。

（７）高収益作物

主食用米から野菜への転換に向けて、基盤整備ほ場の活用を促進するとともに、基幹品目であるながいも、にんにくについて、産地力の強化を図るため、優良種苗の供給体制の強化や省力技術の実証開発に取り組む。

また、長年作付けが定着した地域では、畑地化促進事業の活用を推進する。

５　作物ごとの作付予定面積等

（単位：ha）

作物等	前年度作付面積等	うち二毛作	当年度の作付予定面積等	うち二毛作	令和８年度の作付目標面積等	うち二毛作
主食用米	43,700		44,185		44,185	
備蓄米	0		1,044		1,044	
飼料用米	4,248		2,419		2,419	
米粉用米	16		26		26	
新市場開拓用米	292		412		412	
ＷＣＳ用稲	676		736		736	
加工用米	344		344		344	
麦	475		472		472	
大豆	4,254	73	4,292	73	4,292	73
飼料作物	2,548		2,434		2,434	
・子実用とうもろこし	243		292		292	
そば	853		823		823	
なたね	2		2		2	
地力増進作物	18		18		18	
高収益作物	1,900		1,776		1,776	
・野菜	1,839		1,722		1,722	
・花き・花木	23		22		22	
・果樹	4		4		4	
・その他の高収益作物	34		28		28	
その他	13,131		13,131		13,131	
畑地化	343		343		343	

6　課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の多収品種による複数年契約取組助成 （R6年度からの継続分）	飼料用米作付面積	（令和７年度）4,248ha	（令和８年度）2,419ha
			単収	（令和７年度）　601.1kg/10a	（令和８年度）　614kg/10a
2	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の多収品種による複数年契約取組助成 （R7年度からの継続分）	飼料用米作付面積	（令和７年度）4,248ha	（令和８年度）2,419ha
			単収	（令和７年度）　601.1kg/10a	（令和８年度）　614kg/10a
3	飼料用米 （基幹作）	飼料用米の多収品種による生産性向上メニュー取組助成 （R8年度からの新規契約分）	飼料用米作付面積	（令和７年度）4,248ha	（令和８年度）2,419ha
			単収	（令和７年度）　601.1kg/10a	（令和８年度）　614kg/10a
4	米粉用米 （基幹作）	米粉用米の生産性向上メニュー取組助成	米粉用米作付面積	（令和７年度）　16ha	（令和８年度）　26ha
			単収	（令和７年度）　610kg/10a	（令和８年度）　614kg/10a
5	新市場開拓用米 （基幹作）	新市場開拓用米の生産性向上メニュー取組助成	新市場開拓用米作付面積	（令和７年度）　292ha	（令和８年度）　412ha
			単収	（令和７年度）　619kg/10a	（令和８年度）　632kg/10a
			生産性向上の取組経営体数	（令和７年度）　73経営体	（令和８年度）　103経営体
6	ＷＣＳ用稲 （基幹作）	ＷＣＳ用稲の生産性向上メニュー取組助成	ＷＣＳ用稲作付面積	（令和７年度）　676ha	（令和８年度）　736ha
			単収	（令和７年度）　1,179kg/10a	（令和８年度）　1,204kg/10a
7	大豆 （基幹作）	大豆作付拡大助成	大豆作付面積	（令和７年度）4,254ha	（令和８年度）4,292ha
			単収	（令和７年度）142kg/10a	（令和８年度）145kg/10a
8	子実用とうもろこし （基幹作）	子実用とうもろこし作付拡大助成	取組面積	（令和７年度）　243ha	（令和８年度）　292ha
			単収	（令和７年度）617kg/10a	（令和８年度）646kg/10a
9	そば、なたね （基幹作）	【国枠】 そば・なたね振興助成	そば作付面積	（令和７年度）　853ha	（令和８年度）　823ha
			なたね作付面積	（令和７年度）　2ha	（令和８年度）　2ha
10	新市場開拓用米 （基幹作）	【国枠】 新市場開拓用米振興助成	新市場開拓用米作付面積	（令和７年度）　292ha	（令和８年度）　412ha
11	新市場開拓用米 （基幹作）	【国枠】 新市場開拓用米複数年契約加算	新市場開拓用米作付面積	（令和７年度）　292ha	（令和８年度）　412ha

※　必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※　目標期間は３年以内としてください。

７　産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：　青森県

整理番号	使途 ※１	作期等 ※２	単価 （円/10a）	対象作物 ※３	取組要件等 ※４
1	飼料用米の多収品種による複数年契約取組助成 （R6年度からの継続分）	1	12,000	飼料用米（基幹作）	生産性向上、複数年契約（R6年度からの継続）
2	飼料用米の多収品種による複数年契約取組助成 （R7年度からの継続分）	1	12,000	飼料用米（基幹作）	生産性向上、複数年契約（R7年度からの新規）
3	飼料用米の多収品種による生産性向上メニュー取組助成 （R8年度からの新規契約分）	1	12,000	飼料用米（基幹作）	生産性向上
4	米粉用米の生産性向上メニュー取組助成	1	12,000	米粉用米（基幹作）	生産性向上
5	新市場開拓用米の生産性向上メニュー取組助成	1	12,000	新市場開拓用米（基幹作）	生産性向上
6	ＷＣＳ用稲の生産性向上メニュー取組助成	1	12,000	ＷＣＳ用稲（基幹作）	生産性向上
7	大豆作付拡大助成	1	12,000	大豆（基幹作）	主食用米以外の水稲への輪作、作付拡大
8	子実用とうもろこし作付拡大助成	1	12,000	子実用とうもろこし（基幹作）	作付拡大、単収向上の取組
9	【国枠】そば・なたね振興助成	1	20,000	そば、なたね（基幹作）	生産振興
10	【国枠】新市場開拓用米振興助成	1	20,000	新市場開拓用米（基幹作）	生産振興
11	【国枠】新市場開拓用米複数年契約加算	1	10,000	新市場開拓用米（基幹作）	生産振興

※１　二毛作及び耕畜連携を対象とする使途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は使途の名称に「○○○（二毛作）」、耕畜連携の場合は使途の名称に「○○○（耕畜連携）」と記入してください。
　　ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。
　　なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、使途の名称に「○○○（耕畜連携・二毛作）」と記入してください。
※２　「作期等」は、基幹作を対象とする使途は「１」、二毛作を対象とする使途は「２」、耕畜連携で基幹作を対象とする使途は「３」、耕畜連携で二毛作を対象とする使途は「４」と記入してください。
※３　産地交付金の活用方法の明細（個票）の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。
※４　産地交付金の活用方法の明細（個票）の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。